

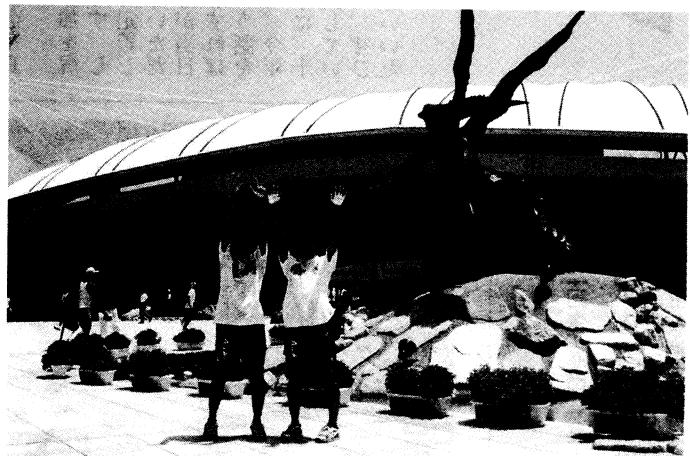
一宮西高

同窓会報

第18号

2002年7月1日発行

発行：一宮西高校同窓会事務局
一宮市萩原町串作字河田1番地 TEL 491-0376
TEL (0586) 68-1191 FAX (0586) 69-0196
E-mail iwh-d@owari.ne.jp



同窓会活動に新風を

同窓会副会長 傍島章介

新緑がまばゆく萌える初夏、同窓生の皆々様にはますます健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃は同窓会の活動に対し深いご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。又、母校も更なる発展と、魅力ある学校づくりを目指して、全校あげて取り組んでいるとお聞きし大変有りがたく思っています。

さて平成十三年度同窓会総会は昨年八月十一日に一宮平安殿にて開催され、皆様方、ご多忙にもかかわらず、旧職員二十四名、現職員十二名の先生方に御出席していただきました。また、一般会員につきましては一九一名の出席があ

りました。その中で、全日制第八回生、第十六回生、定期制五十七年卒D組の皆様方がそれぞれの学年同窓会を企画され第八回生五十五名、第十六回生六十二名、定期制五十七年卒七名の御出席をいたしました。あらためて、厚く御礼申し上げます。

八回生の学年同窓会が昨年度の総会と並行して開かれました。案内を出しましたが、「総会の中では？」と思つた人もいて最初に返事があつた人は少なく、電話攻勢をかけることになりました。多くの人の助けを借り、連絡の輪を広げながら、当日に至りました。受付の場ではなつかしい顔。でも、顔には年齢相応のしわが…。自分の顔に責任を持たなければいけない年齢になつたんだと妙に納得して、席に着きました。同じ年齢のテーブルからは、楽しそうな話声・笑い声が聞こえ、本当に懐かしい時間を過ごすことができました。忘れかけた若い頃の情熱や気負い・劣等感も今となつてはちよつとした思い出と思えるだけの年月が過ぎてしましました。

第二次会にも多勢の人々に集まつていただき、また、来年の再会を約束して散会となりました。三次会以降については…？

この同窓会が今の自分の刺激になり、さらなるステップになればいいなど、虫のいいことを考えていました。

のは、級友、先輩、後輩の方々とのコミュニケーションをはかる事も非常に意義のあることと思います。同窓会の場では、高校時代に戻つて、損得も利害もなく懐かしいひとときを過ごしていただき、明日への英気を養つていただけたら幸運に思つています。どうか、皆様方おさそい合わせの上、積極的にご参加いただき、盛大な総会となりますようお願い申上げます。

八回生 学年同窓会

八回生 加藤廣子



平成14年度

同窓会総会のお知らせ

(全日制 第17回生学年同窓会同時開催)

- ◆日 時 8月11日(日)午後5時より
- ◆場 所 一宮スポーツ文化センター
- ◆会 費 5,000円(学生は3,000円)

同封のハガキで出欠をお知らせください。

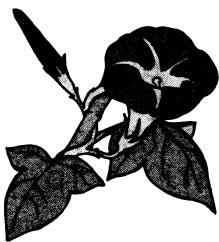
※来年度は、第18回生(昭和59年卒)の学年同窓会を計画しております。

平成十三年度の総会は、八月一日（土）午後五時より、一宮平安殿で行われました。八回生・十六回生を中心として、総勢百九十一名の方々に集まつていただきました。また、ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生方をはじめ、懐かしい旧担任・副担任の先生方など多くの先生方にご来賓として出席いただきました。

総会では、平成十二年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成十三年度の事業計画・予算案の審議と、例年どおり議事が滞りなく進められました。特に会計面では、多くの方に郵送料カレバをし、名残りは尽きないまま記念写真が残り尽きないまま記念写真が残りました。

懇親会の各テーブルでは、所狭しと師弟入り混じつて旧交を温めることができました。話が盛り上がり名残り尽きないまま記念写真でお開きとなりました。

同窓会総会というと、参加を尻込みされる方が多いようです。しかし、学年単位の同窓会も定着しています。欠席された方が当日の評判を聞き、自分も参加すればよかつたと悔しがつたという話をよく聞くようになりました。今年度は、ご案内もあるように、十七回生の学年同窓会を計画しています。お説い合わせのうえ、ぜひご参加下さいますようお願いいたします。



十六回生 学年同窓会



十六回生の学年同窓会が総会と並行して行われました。同窓生約六十名と、鹿野先生をはじめ恩師など多くの先生方にご来賓として出席いただきました。思い出話に花が咲き、西高生だったあの頃にタイムスリップしたように笑い声が響いていました。男性が少なかったのは残念でしたが、女性が多かつたことで華やか（賑やか）な会となり、どれだけお喋りしても喋り足りない様子で名残りは尽きませんでした。今度はクラス会や部活動の集まりを、という声も上がっていましたので、その折にはみなさんよろしくお願いします。

(事務局 近藤)

昨年の十二月八日（土）に毎年恒例の同窓会が行われました。西高からは入野先生と金子先生に来

ていただきました。入野先生はこの東京で行われる同窓会が大好きなので、私は今回で3回目の参加なのですが、知る限りでは少なくともその時から毎回出席されています。同窓会の連絡が少し遅れ、社会人の方もおられるので都合がつかなかつたりして、例年に比べ少人数でしたが、アットホームな雰囲気で次会まで楽しむことができました。毎回感じるのでですが、年齢や学生だつたり社会人だつたりの違いはあっても、みんな西高の卒業生だからなのか、初めて会う人でも学生時代のことなどを話し、すごく親近感を感じられ盛り上がることができました。これは西高生ならではの結束力だと思いますが、年下の学生の方は本当に弟のような感じすらしました。懐かしい友達と会えることもこの同窓会の楽しみのひとつですが、学生がこんなに気軽に社会人の方と色々な話ができることも得るものが多いよい機会であり、是非より多くの人に参加していただき盛り上げていきたいと思いま

す。次回はしっかりと連絡が行き届くように改善できればと考えています。今年も同窓会を予定していますので、より多くの卒業生のみなさまにお会いできることを楽しみにしています。

ご転任のお土産からのメッセージ

西高には、昭和五十九年四月に赴任し平成十三年三月までの十七年間お世話をになりました。西高では、教育の様々な場面で恒例の同窓会が行われました。西高からは入野先生と金子先生に来

た。前半の学校群制度の八年間は、相手校に追いつき追い越すという目標のはつきりした時代で、教科指導には格別厳しいものが要求され、若い教員には学ぶもののが多かった時代でした。職員室には日本語で「講話」に生徒も教員も固唾を飲んで聞き入ったあの時代を今でも懐かしく思い出します。文武両道のモットーのもとに、生徒一人一人を大切にし、その人間的な成長を促しながら、県下に名だたる進学校としての誇りに満ちた教育がなされていました。複合選抜制度に移行してから九年間は、群時代に育てられた若い教員が「西高の精神」を継承しながら、「新しい西高の教育」をめざし保護者・生徒と一緒に進学校としての道を模索した時代でした。様々な試行錯誤の上に到達したスクール・アイデンティティーは、学校群時代よりもさらにきめ細かな教育を実践していく一方で、生徒に進路実現に伴う自己責任の自覚を促していくこうというものがでした。移行期の五六年間が一番厳しく辛い時代だつたでしょ

うか。あの時代に、西高は実に多くの「情熱」と「誠意」に溢れた先生方に恵まれました。そして、生徒もよく我々の期待に応え、真剣に学習に取り組み、真摯な生き様を見せてくれました。私にとって、三月の卒業式はこうした子供達の成長を、特別な感慨をもつて見送り何かしら誇らしげな気分にさせられる時でした。

西高では、教育の様々な場面で生徒との信頼関係」という言葉が使われました。生徒が登る山が高ければ高いほど、それに伴う努力は大きく困難であるのは当然の道理。そう言って憚らぬ教師がい

ました。そして、生徒達が高い山を目指して真摯に努力するのであれば、我々教師もとことんつきあおうではないか。いつの頃からか、ごく自然に教師の口からこのような言葉が出る学校になりました。それを「西高の文化」という言い方をする人もあります。こうした先生方の努力の集積が、学校群の中ではほとんど唯一大きな落ち込みもなく学校を維持させた原動力だつたのではないか。西高が今後とも、県下でも有数の進学校として、生徒・保護者・地域の人々そして同窓生の皆さんから愛される学校として発展されたいことを心より願願します。

西高での二十五年を振り返って

岩田 幸雄先生

私が西高に赴任したのは昭和十二年で、学校群制度が始まって五年目のことでした。学校群制度とは地域の伝統校と比較的新しい学校が一括して生徒を募集し、合格者を均等に二分して互いに競い合うという制度です。戦前からの旧制中学を前身とする伝統校と同じ新入生を迎える、三年後には立派に卒業させるという責務が伝統校の一分校に課せられたのでした。

誇らしさと同時にその重責を思つけ、当時の先生方の御苦労がしのばれます。

実際、学校群時代を通じて西高は地域の年配の方々から「分校」と呼ばれて、また高校入試の合格発表当日には西高に振り分けられた受検生が涙を流すという光景

はや伝統校の名声を借りて生徒募集はできなくなりました。地理的、制度的不利を克服して西高の独自性をいかに築き上げるかが容赦なく問われることとなりました。実際、数年内に県内の高等学校の良さは私たちを大いに勇気づけ、海団なき変革の荒海の中を細心の注意を払いつつも果斷に改革を断行し船を進めて行きました。当時教師も生徒も「西高のアイデンティティー」という言葉をよく口にしました。初めての卒業生達はその特色を生かし学校群時代にも成し得なかつた成果さえ上げてくれたのでした。

思えば、自由経済を土台とする私たちの社会は、自由のおかげで創意工夫と切磋琢磨により技術革新をもたらしました。しかし、一方でこの社会は自己責任と自由競争の果てに格差と不平等を内包し、大きな問題となっています。とはいっても、私たちは自由と資本主義を捨てるのではなく、不完全な制度であっても、どれほど時間がかかるとしても、根気強く改善をし続けるほかありません。

「強くなければ生きられない。優しくなければ生きている価値がない。」

西高は互いに矛盾する価値を並立させ、長い時間をかけて立ち止まるところなく、工夫改善を重ね、より成熟した学校という小社会を築いてきました。私たちが悩みな

も見られました。当時の私たち教員の胸の内には、「入学したときは悔し涙であつても卒業するときには西高でよかつたうれし涙にしてやろう」という痛切な思いがあり、様々な独創的指導が立案され実行に移されました。

こうした学校群時代も終わり頃の数年には制度廃止が周知のこととなり、校内には危機感がつのり、生き残りをかけた必死の指導が行われ、毎年三月に行われる卒業生の進路状況発表の際には、その結果を息をこらして見守るといった雰囲気がみなぎっていました。新しい複合選抜制度は伝統校復活を目指すものであり、なまなかな実績では西高が時代の潮流のまれてしまうことは必至のことでした。おそらくこの数年間が西高で最も大きな成果が上がった時期であったと思います。ようやく入学生の多くが「西高が良い」と言つてくれるようになったのもこの頃です。

続けてきました。結果として個人の考え方の違いを込み実力を重んじる大度な気風と合理的な精神が培われ、同じことをしていて同じ結果は得られない、伝統とは改革の集積である、と躊躇なく言える思考法が養われました。

このように言うと進路実績のみを冷徹に追求してきたように思われるかもしれません、決してそうではありません。西高の自己中心性の中には進路保障と並んで「西高の自由」という概念があります。すなわち、西高祭を中心とした行事と部活動という生徒自身が積極的に取り組む活動を保障するということと、一人ひとりの生徒の意志が尊重され指導されるということです。実際、学校が週五日制になるに際しての議論の中で、学習と行事は対立しました。しかし、議論はどちらを選択するかという方向には向かわず、両者のバランスをいかに取るか工夫するといった、より成熟した付加価値の高い解決法を模索すること

お世話になりました

中西
幸子先生

西高 & INTERNET

1 西高OBのホームページ

9回生の鷲津秀樹さん主宰。西高の学校行事、部活動などの話題や、OB同士が情報交換できる掲示板など盛りだくさんで楽しい内容です。ぜひ、ご覧ください。<http://www.ops.dti.ne.jp/~iwh/>

2 西高メーリングリスト

28回生の牧さん主宰。西高の話題を中心に、さまざまな情報を交換しています。申し込みは、牧さんまで。

E-mail maki@claris.office.ne.jp
3 同窓会事務局へのお便り・出欠のご返事もE-mailでどうぞ。
E-mail iwb-d@owari.ne.jp



◎同窓会名簿のご案内

来年度は名簿発行の年になりますので、住所確認ハガキが届きますので、協力お願いいたします。

また、名簿の編集は廣済堂に依頼しております。それ以外の業者は関係ありませんのでご注意ください。

● 同窓会報原稿の募集

同窓会事務局では、会報に掲載する原稿を募集しています。卒業後さまざまなかたでご活躍の皆さんの近況をお知らせください。経営している会社や商店のことと、趣味や旅行のこと、ご家族のこと、何でも結構です。また、同窓会の活動や会報についてのご意見、ご要望をお待ちしています。

同窓会事務局にて郵便かFAXまたは、E-mailでお送りください。くわしくは、事務局までお問い合わせください。

学園だより

昨年度の同窓会活動報告

平成十二年度は八月六日（日）に一宮平安殿にて開催。
旧・現職員・一般会員合わせて八十七名の参加をいただきました。
平成十三年度は八月十一日（土）に一宮平安殿にて開催。
旧・現職員・一般会員合わせて百九十九名の参加をいただきました。

三、同窓会報郵送料カンパの実施
平成十二年度も一口千円のカンパをお願いしました。今年度も別記のとおり実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

四、東京支部会の開催
平成十二年度は十二月九日（土）に新宿にて開催されました。学校側から菱川善久先生・丹下由男先生が参加されました。学年平成十三年度は十二月八日（土）に新宿にて開催されました。学校側から金子秀夫先生・入野勝年先生が参加されました。

五、同窓会入会式および卒業記念品贈呈

平成十三・十四年度とも三月一日に実施されました。第三十五回生三十六名第三十六回生三二〇名が同窓会に入会し、一般会員総数は一二三・九三八名になりました。また、卒業生に卒業記念品として証書筒を贈呈しました。

部活動の成績

大学合格者数一覽

(平成十四年度入試)

東海大会 四〇〇M 野津 巴 7位 河野・野津・阿部・鈴木 6位

運動部の合意

東北 大	1	岐 阜 大	14	滋賀県立大	4	愛 知 大	77
東京 大	1	三 重 大	12	岐阜県立看護大	1	愛知学院大	10
一 橋 大	1	滋 賀 大	9	神戸市看護大	1	南 山 大	15
金 沢 大	5	京 都 大	2	大阪市立大	1	愛知淑徳大	34
東京外語大	1	広 島 大	1	国公立大合計	187	金城学院大	44
福 井 大	1	信 州 大	2	早 稲 田 大	6	相山女学園大	36
静 岡 大	1	富 山 大	1	国際基督教大	1	名 城 大	46
名 古 屋 大	42	名古屋市立大	12	東京理科大	16	同 志 社 大	9
愛 知 教 育 大	25	愛知県立大	12	明 治 大	1	立 命 館 大	41
名古屋工業大	29	福井県立大	1	慶 応 大	3	関西学院大	2

事務長	榎原健祐	(一宮南高等学校)
主事	水上かほる	(一宮聾学校)
平成十四年度		
転出者		
国語	中西 幸子	(退職)
国語	市田 弘之	(一宮商業高校)
生物	清水 美千子	(退職)
英語	岩田 幸雄	(一宮高等学校)
英語	金子 秀夫	(一宮工業高校)
事務室		

職員の異

(敬 称 略)

(第三十五回生)